

環境先進国

ドイツから学ぶ

28

吉田 浩巳



で使いきることを大きな問題と認識すべきだとあらためて感じました。

さて、エコフェスタ2010での講演会でエプラー氏は、所属NPOの会員数が1980年ころには5万人だったのが43万人に増加した経緯についても報告されました。

その中でエプラー氏は「会員獲得のために大学生に戸別訪問をしてもらい、NABUを知っているかというアンケートを実施し『NABUへ入会しませんか』という勧誘も頻繁に行いました。会員になつた方にはさらに二人を勧誘してもらつたなど、精力的に勧

本紙上でも紹介させていたドイツ環境情報センター所長のローランド・ホーン氏とドイツ最大級の環境NPO、NABU(ドイツ自然保護連盟)のヘッセン州代表のゲルハルト・エプラー氏のお二人を日本に招聘(しょうへい)しました。

11月5日には三重県議会の新エネルギー特別委員会でドイツのエネルギー政策についてお話をいただき、7日には橿原市で開催した環境啓発イ

環境NPO、日本で報告

環境実務者と相互交流

ベント「エコフェスタ2010 in まほろば」で講演をしていただきました。

さて、三重県議会では、活発に県議会議員の皆さんから質問を受けました。特に原子力発電や太陽光発電に関して

は、原子力はあくまでも「つなぎ」としての一時的なエネルギーで、核廃棄物の最終処分問題や安全確保の問題があり、ドイツでは新しく原子力発電所は建設できないことなどの説明を行いました。

また、ドイツでは電力消費の18%を風力発電、30%を原子力発電でまかなっているのが現状で、風力発電については、技術的には、柱の高さを2倍にすると、4倍以上のエネルギーを得ることが実証されたり、技術も日進月歩とい

う状況も話されました。また、風力や太陽光のエネルギーはどこにでもあり、地域によって再生可能エネルギーで最適なものが違うので、中央の政策というよりも各地域でエネルギー政策に関わっていくべきで、地域住民も巻き込んで、住民に利点を感じてもらつことも大切な指摘しました。

国の方向性として、民間の資金も活用し、優先順位を立てながら制度設計をしている現状を聞く、地球が何百年もかかって生んだ資源を数十年



ドイツから環境問題に取り組む実務者を招いて開催したエコフェスタ2010 in まほろば

（社団法人まちづくり国際交流センター理事長）

毎月第2、第4、第5水曜日掲載